

# 研究協力をお願い

昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和大学病院附属東病院整形外科における、骨粗鬆症患者の腹壁仙骨間距離と骨密度、体幹姿勢、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、腹囲に関する調査

## 1．研究の対象および研究対象期間

2017年4月1日から2023年12月31日までに昭和大学病院附属東病院整形外科の骨粗鬆症外来を受診した患者さん

## 2．研究目的・方法

目的) 骨粗鬆症治療を行う大きな目的は、骨折を予防することです。一般的に骨粗鬆症による骨折は、股関節（足の付け根）の骨折や背骨の骨折、手首の骨折、あばら（肋骨）の骨折などがあり、骨折をすると痛みのために寝たきりになったり、手術が必要になったりします。骨折を防ぐためには、骨粗鬆症の治療をおこない、転倒しても骨折しないように骨を丈夫にすることがとても大切になります。骨折を予防するためのもう一つの方法は、転ばないようにすることです。ところが、加齢とともに筋力の減少が起こり（サルコペニアと言います）、背骨も猫背になって重心の位置が変化することによって、歩行のバランスも変わってきます。また年齢を重ねると虚弱（フレイルと言います）が生じ、今まで以上に転倒しやすくなってしまいます。日本整形外科学会という日本国内の整形外科医が参加している学会が中心になり、移動能力の低下をきたす状態をロコモティブシンドロームと名付けました（以下、「ロコモ」と称します）。

昭和大学病院附属東病院の整形外科のチームでは、普段の診察で背骨の骨折が無いかを調べさせていただいている脊椎のレントゲン写真を用いて腹壁仙骨間距離というものを測定し、これが腹囲や背骨の猫背と関係があることを学会や論文で報告しました。ただ、この腹壁仙骨間距離は新しい概念であるため、データの蓄積が必要になります。

みなさんが通院している昭和大学病院附属東病院整形外科の骨粗鬆症外来では、骨密度の検査をしたり、背骨の骨折を調べるためにレントゲン検査を行ったりしています。また、体力測定として握力や片足起立時間、歩行速度、腹囲などの測定や、生活習慣として食事の摂取状態や入浴回数、運動習慣などを聞かせていただいています。ところが、これらの体力測定や生活習慣の項目、ロコモ、サルコペニア、体幹姿勢などと腹壁仙骨間距離がどのように関連するのかを総合的に調査した報告がないため、これらの関係を調査することを目的

とします。

統計解析)統計ソフトは Stat Flex 7.0 を使用します。

### 3 . 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025 年 1 月 31 日までです。

### 4 . 研究に用いる試料・情報の種類

診療録の中から、患者背景(年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬)および臨床検査項目(血液尿データ(血算、血液および尿生化学、骨代謝マーカー)、骨密度、脊椎および下肢の単純レントゲン写真、ロコモ度テスト、体力測定(握力、開眼片脚起立時間、歩行速度、3m timed up & go、重心バランス、腹囲、血圧)、生活習慣(食事の摂取状況、入浴回数、運動習慣、転倒回数)、フレイルの点数を調査に使用します。

### 5 . 外部への試料・情報の提供

昭和大学の単施設で実施するため、該当いたしません。

### 6 . 研究組織

研究責任者      昭和大学病院附属東病院      永井隆士

### 7 . お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

所属:昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名:永井隆士

住所:142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19

電話番号:03-3784-8543(整形外科医局)

研究責任者:永井隆士